

春の花を尋ぬ（菅三品）

五嶺蒼蒼雲往來 但憐大庾萬株梅
誰言春色從東到 露暖南枝花始開

五嶺 蒼々として 雲 往來す

解説 余寒が残る初春に梅の花を見つけ、その花が南側の枝についていることから、「春は東方から」という常識に対して詠った詩。

但 憐れむ 大庾 万株の 梅

誤訳 ※五嶺＝四方の山々。南嶺山地の五つの山の総称。
※蒼蒼＝青々としていることをいう。※大庾＝大庾嶺をいう。
江西省大大庾県の南にあり、古くは塞上といった。※但憐＝心引かれる。※春色＝春の景色。

誰か 言う 春色 東より 到ると

通釈 五嶺に連なる山々は、蒼く聳え、その上を白い雲がゆつたりと行き来している。その中であって、大庾嶺の万株の梅の木々

露 暖かにして 南枝 花 始めて 開く

が花をつけていることに心ひかれる。誰がいったのであろうか、春の景色は東方からやってくるなどと。これらの梅の花は露も暖かな南の枝から咲きはじめているのに。